



新聞人と地域つなぐ

県高校PTAフォーラム NIE実践事例紹介

県高校PTA連合会フォーラム「親子の絆を深める新聞活用〜地域、学校、家庭をつなぐ」(主催・同連合会、共催・県教育委員会、県PTA連合会、琉球新報社)が20日、豊見城市立中央公民館で開催され、約60人が参加した。教育行政、PTA、学校現場の関係者が集うフォーラムの開催は初めて。

パネル討議で子どもたちの豊かな学びと育ちを支えるための家庭、学校、地域連携などが話し合われた。県教育庁生涯学習振興課新聞活用をきっかけにした家庭、学校、地域の連携が話し合われた。県高校PTA連合会フォーラム 20日、豊見城市立中央公民館

の蔵根美智子課長は「新聞は人と人をつなぐ素材。社会教育、生涯学習の面でも有効」と強調。「大人自身」が新聞に親しむ環境づくりに取り組み、その良さを子どもに伝えていくことが大切だ」と呼び掛けた。県高校PTA連合会の北



川武一会長は「学校、行政とも連携しながら、地域の結び付きへとつなげていきたい。新聞はそのきっかけとなる」と期待を込めた。学校現場からは学校、家庭、地域をつなぐ役割を果たす新聞の有効性について意見が出た。小祿高の仲田洋一校長は「学校が新聞に取り上げられると生徒は誇りに感じる。報道をきっかけに地域との関わりが深くなる」と話した。NIEアドバイザーの仲程俊浩豊見城中教諭は、家庭や学校でのNIEの実践

を紹介しながら「子どもに好奇心、考える力、多様な視点を与えてくれる。学力の大きな下支えになる」と話した。